

もうちょっと考えてみましょう！

やまもと まさひろ
山本 昌弘 ●連合・企画局長

さて、「New Wave」の執筆に関しては、今回で2回目となります。先回は、2018年3月号に「ちょっと考えてみましょう！」のタイトルで、技術の進歩の一方で、人と人との直接的な会話が疎かになる風潮に対し、警鐘を鳴らす原稿を書きました。

今回は、その延長線上でもあり、続編として私が身近に感じた「技術の進歩をどう考えるか」について書いてみたいと思います。つい最近、スポーツジムに通うことにしました。ジム内で周りを見渡すとイヤホンをして、ランニングマシーンで走っている人がほとんどなので、私はワイヤレスのイヤホンを購入しました（ワイヤレスではない人もいますが）。そのイヤホンが画期的で、ある曲を聴きたいと思ったら、話しかけて音声認識でスマートフォンの中にダウンロードしている楽曲を選曲できるのです。テレビコマーシャルでは、音声認識で家の明かりをつけたり、消したりする映像もみえていましたが、自分自身で体感してみると本当に画期的で、電話をかけたいときにも音声認識を通じて、登録している番号を検索し、かけることもでき便利なことこの上ありません。

先回の原稿の中で、「携帯の普及においてさえ、いつでもどこでもだれとでも話ができて、生活パターンが大きく変わってしまったわけですが、スマートフォンの登場は、それ以上に画期的であり、人間の行動パターンを根底から変える技術の進歩であると思っています。」と記載

いたしました。今回、約1年後の執筆ですが、その間の技術の進歩を垣間みた瞬間でした。

ここからが、私が今回書きたかった事ですが、前回では「技術の進歩でも変えていけないもの、変わってはいけないものがあります。モノ（もの）を介して人と接する機会が多くなればなるほど、私個人としては、人と人が直接会って、会話することの大切さ・重要性」について書きましたが、あわせて、私たちがもうちょっと考えなければならないことは、これからの技術の進歩で、自分自身も変わっていくもの、変わってしまうものでもあることです。そのことを認識しつつ、自ら主体的にどの様に自分を変えていくのかを考えていくことが必要だと思います。なぜなら、技術の進歩に受動的に対応しては、思考が停止してしまいかねず、ただ便利だから、楽だからではなく、生活を充実させていくためにどの様に能動的に活用していくのが重要であると思います。

急速に進む技術革新（思考・認識の技術の格段の向上）により、既にスマートフォンから話しかけてくる時代になっています。さらには、現在の4G（第4世代）から5G（第5世代）への移行間近とされています。この技術により自動車の自動運転が完成されるとのことです。

技術の進化とともに、自らをどの様に変えていくのかも考えなければならない時代ではと感じている今日この頃です。